

授業科目名	臨床実習入門プログラム (Introduction to Clinical Clerkship)		
対象学年	医学科 4 年生	単位	4 単位
科目責任者	かわもと まさし 河本 昌志	所属	麻酔蘇生学 (内線 5265)
		メール	anekawa@hiroshima-u.ac.jp
科目 コーディネーター	まつした たけひこ 松下 毅彦	所属	医学教育センター (内線 6864)
		メール	tmatsushita@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	全員を対象とした講義形式および小グループ単位での実習形式を併用する。実習では、指導者のもとで互いに診察実技を行い、繰り返し練習することで手技の修得をめざす。		
概要	臨床実習を行うにあたっては、単に疾患についての知識をもっているのみではなく、患者さんに接する際にとるべき態度や、医療面接や身体診察を正しく行う技能も身に付けておく必要がある。本プログラムでは、診療の現場に出るにあたって必要な態度、知識、技能を総合的に得ることを目標とする。		
	<p>実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。</p> <p>医療上の事故等を防止するためには、個人の注意力はもとより、組織的なリスク管理が重要であることを説明できる。</p> <p>医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療録改竄の違法性について説明できる。</p> <p>医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。</p> <p>医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力の向上の必要性を説明できる。</p> <p>医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントリポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会）を概説できる。</p> <p>医療関連感染症の原因および回避する方法を概説できる。</p> <p>インシデント（ヒヤリハット）と医療過誤の違いを説明できる。</p> <p>医療上の事故等（インシデント（ヒヤリハット）、医療過誤）が発生したときの緊急処置や記録、報告について説明し、実践できる。</p> <p>医療過誤に関連して医師に課せられた社会的責任と罰則規定（行政処分、民事責任、刑事責任）を説明できる。</p> <p>基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセイフ・フルブルーフの考え方等）について概説し、実践できる。</p> <p>医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。</p> <p>標準予防策（Standard Precautions）の必要性を説明し、実行できる。</p> <p>患者隔離の必要な場合について説明できる。</p> <p>針刺し事故〈針刺し切創〉等に遭遇した際の対処の仕方を説明できる。</p> <p>薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。</p> <p>年齢による薬剤投与の注意点（薬物動態の特徴を含む）を説明できる。</p> <p>薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。</p> <p>医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。</p> <p>情報管理の原則（情報公開、プライバシー保護、取り扱い倫理、セキュリティ）を説明できる。</p> <p>医療で扱う診療諸記録の種類を説明できる。</p> <p>診療記録の特徴と要件を列挙できる。</p> <p>電子化された診療情報の作成と管理を概説できる。</p> <p>適切に患者の情報を収集し、POMR〈問題志向型診療記録〉を作成できる。</p> <p>診療経過をSOAP（主観的所見・客観的所見・評価・計画）で記載できる。</p> <p>症例を適切に要約する習慣を身につけ、状況に応じて提示できる。</p> <p>患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。</p> <p>患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。</p> <p>患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。</p> <p>感染を予防するため、診察前後の手洗いや器具等の消毒ができる。</p>		

到達目標

挨拶、身だしなみ、言葉遣い等に気を配ることができる。
患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。
適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で患者に接することができる。
医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。
病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を聴き取り、
情報を取捨選択し整理できる。
診察で得た所見、診断、必要な検査を説明、報告できる。
身長・体重を測定し、BMIの算出、栄養状態を評価できる。
上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。
両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。
呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。
腋窩で体温の測定ができる。
下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定（触診法）、大腿の血圧測定（聴診法）を実施
できる。
頭部（顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋）の診察ができる。
眼（視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜）の診察ができる。
耳（耳介、聴力）の診察ができる。
耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。
音叉を用いて聴力試験を実施できる。
口唇、口腔、咽頭の診察ができる。
鼻腔、副鼻腔の診察ができる。
鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。
甲状腺、頸部血管、気管を診察できる。
甲状腺の触診ができる。
唾液腺、頭頸部リンパ節の診察ができる。
胸部の視診、触診、打診ができる。
呼吸音の聴診ができる。
心音と心雑音の聴診ができる。
背部の叩打痛を確認できる。
腹部の視診、聴診ができる。
区分に応じて腹部の打診、触診ができる。
腹膜刺激徴候の有無を判断できる。
腹水の有無を判断できる。
意識状態を判定できる。
脳神経系の診察ができる（眼底検査を含む）。
腱反射の診察ができる。
小脳機能・運動系の診察ができる。
感覚系の診察ができる。
髄膜刺激所見を確認できる。
四肢と脊柱を診察できる。
関節（関節可動域を含む）を診察できる。
筋骨格系の診察ができる。
静脈採血を実施できる（シミュレータでも可とする）。
清潔操作を実施できる。
手術や手技のための手洗いができる。
手術室におけるガウンテクニックができる。
基本的な縫合ができる。
創の消毒やガーゼ交換ができる。
尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
微生物学検査（Gram（グラム）染色を含む）を実施できる。
妊娠反応検査を実施できる。
血液型判定を実施できる。
視力、視野、聴力、平衡検査を実施できる。
12誘導心電図を記録できる。
脳波検査を介助できる。
心臓、腹部の超音波検査を介助できる。
成人および小児に対して適切な心肺蘇生処置を行うことができる。

講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	講義については、出席状況把握システムにて出席をとり、出席が3分に2に満たない場合は単位を認定しない。 実習については、すべてに参加することを求める。欠席した場合には、春季休暇中にスキルラボにて自己研鑽を行うことを課す。
評価項目	独立した試験は行わない。出席条件を満たせば単位は認定する。 単位の認定にあたっての成績には、OSCEの成績をあてる。
評価法	客観的臨床能力試験（OSCE）によって到達度の評価を行う。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 内科診断学（第2版） 編集：福井次矢/奈良信雄 医学書院